

4ヶ月の育休パパ生活

第11期OB 立松 宗磨

昨年度のエッセイでは、読者を置いてきぼりにすることを全く厭わずに趣味「マラソン」について書きました。そのマラソンでは22年3月の東京マラソンにおいて、目標であったサブ3（3時間切り）を無事達成することができました。そこで、今年度はもう少し皆さんが興味を持てる話をという思いで娘の誕生、及び約4ヶ月に渡って取得した育児休職（以下、育休）について書きたいと思います。

◆娘の誕生

22年2月23日、娘が産まれました（天皇陛下と同じ誕生日ですね）。妻の妊娠中期からずっと逆子であり、逆子を直すためにお灸や外回転術にトライしたものの直らず、予定帝王切開に決まりました（この時点で誕生日が確定）。そのため妻は帝王切開の前日に入院、当日はもちろん陣痛もなく、時間になったらオペ室に運ばれるという、所謂出産前のバタバタ感や出産立ち合いを経験することなく、オペ室に運ばれて30分ほど経ったところで娘と対面しました。母子ともに健康だったことに一安心したことを覚えています。娘は「紗奈」（さな）と名付けました。正直なところ凝った由来はなく、1番のポイントは海外の人でも発音しやすい名前にしたいということであり、後は画数などを考慮して決めました。



娘「紗奈」のニューボーンフォト。

◆新居での3人新生活

一昨年のエッセイでマンション購入について書きましたが、これが丁度タイミングよく、家族増と入居のタイミングが重なりました。妻・娘が退院後1ヶ月半ほど実家で過ごしている間に、私は旧居から新居への引越しを済ませ、新居での3人新生活が始まりました。哺乳瓶を早々に拒否され完全母乳、昼寝・夜寝ともに全く安定せず、長くも寝てくれず、夏頃までは妻と私の体力が削られ続ける大変な日々で色々苦労しましたが、8月末からは私が約4ヶ月の育休を取得するとともに、最大の懸念であった「ねんね」については、妻が見つめてきた「ねんねコンサル」に5万円を支払い、3週間の個別セッションを受けたことが大当たり、昼寝・夜寝ともに寝かしつけの抱っこ不要、起きても一人で寝ることができる、睡眠時間も長くなる、というように抜群の成長を見せました。この「ねんねコンサル」には感謝が尽きません。「ねんね」に困っているパパ・ママがいらっしゃれば、是非紹介したいです（※紹介料はもらっていません笑）。

◆育休取得まで

さて、前置きが長くなってしまいましたがいよいよ本題の育休です。今回 22 年 8 月末から 23 年 1 月上旬まで、約 4 ヶ月の育休を取得しました。政府は男性の育休取得を後押ししようとしており、一部大企業も同様かと思います。そんなご時勢の中で弊社（三菱商事）はどうかというと、社としては取得促進を唄う一方で、実態は部署によって全く異なるというのが現状です。私の所属部署は 4-5 年ほど前に 3 ヶ月取得された方を先駆者として、その後複数人が育休を取得、取得希望があればしっかりと自ら主張して取得する、という土壌ができあがっておりました。

私自身は丁度組合（メディアで報道される、会社と賃上げ交渉などする会社内の労働者団体です）の執行委員、及び所属グループの代表を務めていたことから、男性育休の促進についてもトップが行動で示すことが重要との観点から、同組合任期の終了（生後約 6 ヶ月）からの取得を、（出産 2 ヶ月ほど前に）上司に宣言しました。上司からはありがたくも大変好意的・協力的に受け止めてもらいました。実は海外転勤という話も頂いていたのですが、それもわがままを言って待ってもらい（復職した現在、海外転勤の諸手続き・準備中です）、自分の要望をある種全て叶えてもらうことができました。要望を叶えてくれた上司、不在中の業務サポートを担ってくれた同僚には、大変感謝しております。

◆育休中の生活

妻も育休を取得中のため、夫婦揃っての育休生活となりました。夫婦揃って育休を取得するメリットは様々ありますが、主には、①（言わずもがなですが）子どもの成長を一つ一つ間近に体感することができること、②妻と私が交代で娘の面倒を見ることで、お互いに 1 人の時間を確保することができること（休職が妻 1 人の場合、実家サポートを得ないと 1 人の時間は作れません）、③仕事のスケジュールに縛られないため、（子ども次第ではあるものの）長期旅行ができること、と思います。③については、妻友人の結婚式参列を兼ねて沖縄に 1 週間行ったり、私の実家（名古屋）に帰省して両親に孫とゆっくり会える時間を作ったり、締めにはハワイに 2 週間行ったりと、非常に充実させることができました。こう書くと育休を旅行に活用した呑気なやつと思われるかもしれませんが、書いていないだけで、普段はしっかりと？ 育児中心の生活を送っておりました。朝は 6 時頃に娘とともに起床、自分たちの朝食を済ませた後に離乳食を食べさせ、一方が遊び相手・面倒見をしながらもう一方が料理等家事をし、昼寝（この時間が唯一？ のフリータイム）を挟んで外出（買い物・散歩）、昼食・昼の離乳食を挟んで午前と同じような生活をし、夕方以降はお風呂→夜の離乳食→夕食→寝かしつけと慌ただしく進みます。寝た後も娘が夜通し寝ることは中々ないので、その度に起こされます。ちなみに、趣味のマラソン（結局今年度もマラソンが登場...笑）は昨年度ほどではないものの、娘の昼寝中を活用するなど極力妻に迷惑をかけない範囲でトレーニングに励み、育休も活かしてシカゴマラソン、ホノルルマラソンに参加するなど継続しています（3 月には今年も東京マラソンが控えています）。

◆育休を終えて

育休取得に対する後悔は全くなく、非常に充実した有益な機会になりました。海外赴任中だと正直取得は難しいのですが、もし第 2 子以降に恵まれてタイミングさえ合えば、必ずや、前回（4 ヶ月）以上の取得

をしたいと考えています。育休中は、家族との時間の充実、娘の成長実感、育児スキルの向上など以外にも、育休だからこそ見える景色や考えることがありました。例えば、平日昼間に街や公園などに出ると子連れの男性はめったに見かけず、自分のマイナー感が際立つとともに、少なくとも現在においては、育児（昼間）のほとんどが母親によって担われていることを体感する機会となりました。また、1人の日本人や父親という立場として、自分の子どもを育てることのみならず、日本の国力・将来、直近では報道されている「異次元の少子化対策」などについて、門外漢ながら考えてみる機会にもなりました。これからお子さんが産まれる小野ゼミOBの皆さんには、もちろん家族のスタイル・事情にもよりますが、是非アーリーアダプターとして、長めの育休を取って頂ければと思います。

最後に、育休中の楽しそうな写真を貼り付けることで、皆さんの取得を後押ししたいと思います。笑



生後6ヶ月。ハーフバースデー。



アウラニディズニーにてミッキーと記念撮影。娘が起きないように「しーっ」のポーズで。笑



抱っこ紐でダイヤモンドヘッド登頂。絶景。



サーフィンの聖地、ノースショア。